

グリーンフレーション

吉田 真人

新語である。グリーンは地球温暖化防止・反化石燃料を指し、フレーションはそれによって引き起こされるインフレーションの略である。近時大きな市民権を得たグリーン化の波は、これに邁進しない者は人類の敵だ、という勢いである。

グリーン化の主張により、多くのエネルギー資源会社は投資の抑制を迫られている。今年の株主総会でESG重視の役員3名が選任されたEXXON、オランダの裁判所からCO₂排出削減促進を命じられたSHELL。豪州のBHPは石油事業からの撤退を検討、等々。

将来の稼働継続が見込めないプロジェクトには投資が出来ず、投資なしでは現有設備も含めた継続的な化石燃料の産出が確保できない。世界の化石燃料産出量は漸減ないし急減してゆくだろう。

石油価格は、①現在の需給、②センチメント(将来の見込み)、③チャート(野線)分析、により形成されている、と言われている。現下の市況は、投資不足で近い将来の需給が逼迫する、とのセンチメントを相当程度織り込んでいる。近々の一バレル百ドル乗せも噂されている。

石油価格の形成に大きな役割を果たしているNYMEXを三十数年前に訪問した事がある。ウォール街の一角で、原油だけでなく他の商品、例えば大豆やオレンジジュースも同じフロアの隣り合ったサークルで商っていた。当時原油先物市場はまだ揺籃期であったが、それでも他の商品に比べ賑わっていた印象である。現在は、連日、一日の全世界原油需要量のなんと五〜十倍の取扱高を記録している。

見学を終え、案内をしてくれた代理店の担当と、同じビルにあるカフェに行った。赤ワインを飲みながらふと目を上げると、良く出来た模型の等身大スケルトンが飾ってある。「あれは相場で失敗した者の末期だろうか」と聞くと、「その血を我々は今啜っているんだ」とワインクする。ここは何とも刺激的な場所であった。

現下及び近い将来の原油高により、我々の生血が吸い取られないことを祈るばかりである。